

004 TICA

著作	著者	あらすじ
田村はまだか	朝倉かすみ	【深夜のバー。小学校のクラス会の三次会。四十歳になる男女五人が友を待つ。大雪で列車が遅れ、クラス会同窓会に参加できなかった「田村」を待つ】
隠蔽捜査3 疑心	今野 敏	【キャリアながら息子の不祥事で大森署署長に左遷された竜崎伸也。異例の任命で、米大統領訪日の方面警備本部長になった彼のもとに飛び込んできたのは、大統領専用機の到着する羽田空港でのテロ情報だ】
隠蔽捜査3. 5 初陣	〃	【幼馴染にして立場の違う同期のキャリア。組織の壁に悩む伊丹の苦境を竜崎の信念が救う】 「隠蔽捜査2～果断」と同時期の話で、伊丹から見た竜崎が書かれている。伊丹が問題に頭を悩ませていても竜崎の言葉ですっきり解決してしまう竜崎のヒーローぶりにスポットをあてた勸善懲悪のような展開。前回の「疑心」で女性に心を動かされる人間的な竜崎がつまらなく思ったのは、竜崎のぶれない強さが好きだからなのかも。
死者のための音楽	山白 朝子	【怪談専門誌『幽』に連載された6篇に書き下ろしを加えた愛と哀しみの短編集。幻想的な異界への境界と、親と子を描いた叙情的な物語】 乙一の別名義の短編集。叙情的とはいえ、そこは怪談専門誌、黒な乙一の方の話。 怪談専門誌って存在に驚き、その本の名前のストレートに括弧笑い。
刑事のまなざし	薬丸 岳	【法務技官の夏目が、十年前に娘が襲われた事件をきっかけに刑事になった。そんな刑事が自分の過去と戦いながら独自の視点で事件を解決していく7つの短編集】困ったな、薬丸岳が好きなのにネットであらすじを読んでもよく思い出せない…(-_-;)

六十才から始める 小さな仕事	瀬川 正仁	<p>【「先行きが見えない老後」ではなく、「楽しければどうにかなるさ！」の生き方集の決定版！第2の人生を「お金」ではなく、「幸せ」を求めて活躍している方々の実例を紹介しています】</p> <p>いきなり60で始めるわけじゃなく、昔取った杵柄がないとだめっぽいのが能がないわたしとしては残念。</p>
凍りのくじら	辻村 深月	<p>【藤子・F・不二雄を「先生」と呼び、その作品を愛する父が失踪して5年。高校生の理帆子は一人の青年に出会う。戸惑いつつも、他とは違う内面を見せていく理帆子。そして同じ頃に始まった不思議な警告。皆が愛する素敵な“道具”が私たちを照らすとき—】</p> <p>本心を隠して表面上はへらへらと人に合わせる高校生の主人公に共感を持ってないし、オチもまあねって感じ。でも前に読んだ「ゼロ、ハチ、ゼロ、ナナ」の余韻で読める。「ドラえもん」を見ていればもっと楽しく読めたかも。</p>
白銀ジャック	東野 圭吾	<p>【ゲレンデの下に爆弾が埋まっている—「我々は、いつ、どこからでも爆破できる」。年の瀬のスキー場に脅迫状が届いた。山中でのトリッキーな身代金奪取。犯人の動機は金目当てか復讐か】</p> <p>本が読めない時期から脱却させてくれた本。前半は長いこと放置していても平気な話だったが、読むのを再開した後半は一気読みした。</p> <p>ニノとトヨエツで「プラチナデータ」を映画化だって。どうせならこっちの話の方が派手で映画っぽいのに。てか、「プラチナ」は最早よく覚えちゃいないのさ。</p>
真夏の方程式	〃	<p>【湯川が仕事で滞在していた旅館で宿泊客が変死体で見つかった。その男は定年退職した元警視庁の刑事。事故か殺人か。湯川が気づいてしまった真相とは—】「ジェノサイド」と同時期に読んでいたせい、薄っぺらい理科系の福山しかイメージ出来なかった。「ジェノサイド」が難解だとしたら、こちらはコムズカシイ感じ。どちらがいいかはその時の気分。</p>

		<p>読んでいると福山の鼻にかかった声が聞こえて来る。それだけ役にはまっているということ？</p> <p>ガリレオシリーズは「容疑者X～」で締めちゃえばよかったのに。</p>
鍵のかかった部屋	貴志 祐介	<p>【防犯コンサルタント（本職は泥棒？）・榎本と弁護士・純子のコンビが、4つの超絶密室トリックに挑む。表題作ほか「佇む男」「歪んだ箱」「密室劇場」を収録。防犯探偵・榎本シリーズ】</p> <p>これは忘れる。貴志祐介は長編を書くべき。</p>
ジェノサイド	高野 和明	<p>【急死したはずの父親から送られてきた一通のメール。それがすべての発端だった。創薬化学を専攻する大学院生・古賀研人は、その不可解な遺書を手掛かりに、隠されていた私設実験室に辿り着く。ウイルス学者だった父は、そこで何を研究しようとしていたのか。同じ頃、特殊部隊出身の傭兵、ジョナサン・イエーガーは、難病に冒された息子の治療費を稼ぐため、ある極秘の依頼を引き受けた。暗殺任務と思いき詳細不明の作戦。事前に明かされたのは、「人類全体に奉仕する仕事」ということだけだった。イエーガーは暗殺チームの一員となり、戦争状態にあるコンゴのジャングル地帯に潜入するが...】</p> <p>わたしの中では高野和明といたら「13階段」だったので色合いが違いすぎるこの本は違う人の作品かと思って著作を調べてしまった。</p> <p>手にしてぱらぱらとみたときはこりゃだめだと思ったが、面白いとの評判を信じて読み始めた。輪郭がつかめるまでは翻訳もののような読みにくさも、話に乗ると一気に読まずにいられないほど面白かった。</p> <p>といっても、全部を理解したわけじゃなく難しいところはさらら～と流し読み。それでも面白かったと言ってしまおうわたしはすごい？^^;</p>

健ちゃん、シュクコちゃん、図書館さん

ビンボーなわたしに今回も本をありがとう。一冊も買わないですみました。